

【問い合わせ】環境生活課環境政策グループ ☎73-7511



## 指定ごみ袋で出せないごみはどうするの？

指定袋に入らないものは粗大ゴミです

町で作成している指定袋は大きいものでも50リットルです。特に燃やせるごみは、焼却施設のごみ投入口が63cm四方という制限を受けるため、これ以上はなかなか大きくできません。

指定袋に入らない、ふとんやじゅうたんなどは粗大ごみとして回収しています。

毎月第1・第3金曜日が回収日ですので希望される方は環境生活

### 食用油や電池は回収拠点に出してください

一方、指定袋では回収しづらい食用油や電池、電球類などの資源や、処理が難しいごみは役場やEkiなどの回収拠点で回収していただきます。以下に注意して出してください。

・**食用油** 植物性のサラダ油のみを回収しています。シン油などの機械油は入れないでください。凝固剤で固めたものは燃やせるごみになります。

・**電池** 各種電池のほか、モバイルバッテリーなどの充電式のものも回収が可能です。モバイルバッテリーは収集車内で発火するなど危険性が指摘されています。指定袋ではなく必ず回収拠点に出してください。

・**ガラス・陶器** 道路などの土木資材として再利用しています。回収ボックスに入らないほど大量にある場合は、桜山環境センターへ自己搬入をお願いします。

課へお電話ください。また、桜山にある処分場への自己搬入も可能です。10kgあたり80円、資源物は無料です。許可証が必要となりますので環境生活課または南部公民館で申請してください。

・**電球・蛍光灯** 割れているものも回収します。

・**不要入れ歯** 役場としやるるで回収しています。金属のついていないものは燃やせるごみで出してください。熱湯消毒などを忘れ

なく。  
※入れてきた袋などはお持ち帰りください。  
詳しくは2024年4月版「家庭ごみ・資源物の分け方・出し方」の13ページをご覧ください。

## 春の全町一斉清掃

■日時 **4月19日** 7:00～

- ※6:45の打上花火で合図・雨天決行
- ※詳細は各町内会・自治会経由でお知らせします。
- ※家庭ごみの収集は行っていません。家庭ごみは、各地区の決められた曜日に排出してください。



・下記のとおり、分別をお願いします。

種類	排出方法	注意事項
木・枝	ひもで縛る	1m程度の長さ揃えて出してください。
土砂	肥料袋	袋が必要な場合は役場に連絡ください。
缶・びん・ペットボトル・鉄金属類	資源物専用袋	「缶・びん・ペットボトル」と「鉄金属類」に分けて出してください。
燃やせるごみ (プラスチック類含む)	資源物以外のごみ専用袋	「燃やせるごみ」と「燃やせないごみ」の分別をせずに出してください。
燃やせないごみ		
草・花		他のごみと混ぜずに、草・花のみとしてください

## 栗山学び隊 / 栗山高校



介護福祉学校と栗山高校を隔月で取材!  
「栗山と福祉」で学んだこと



鈴木 理仔さん (3年)

栗山高校は、独自の認定科目「栗山と福祉」を展開し、3年間福祉を学びます。学びを深める中で介護の仕事に魅力を感じ、「将来は介護福祉学校へ進みたい」と考えるようになった鈴木理仔さんを取材しました。

### ポッチャから福祉の道へ

栗山町出身の鈴木さんは、幼いころからポッチャに親しみ、障がいの有無にかかわらず共に楽しめるこのスポーツを通じて交流を深めてきました。その経験が福祉に対する心の壁を取り払い、福祉をより身近なものへと変えていきました。自然と「福祉に関わりたい」という思いを抱いた鈴木さん。中学3年生のとき、福祉を専門的に学べる栗山高校への進学を決めました。入学後、専門知識をつけていく中でさらに福祉への興味が深まったといいます。「自分から新しい一歩を踏み出すのは時間がかかるタイプですが、福祉を学ぶことで新しい

視点や体験が得られ、とても楽しいです」と笑顔で話してくれました。

### 交流で深まる、福祉の視点

「栗山と福祉」の授業では、介護福祉学校の学生とともにカルチャープラザや栗山公園といった、町内の主要な公共施設を「福祉の視点」で回ります。

さらに、実際の支援現場を知るため、こうした町歩きに加え、特別養護老人ホームくりのさとや介護老人保健施設ガーデンハウスくりやまの施設見学も行われ、利用者の方と交流する機会があります。鈴木さんはこの交流で、利用者の方とペアになり、タオルでボールを渡すゲームに挑戦しました。「息を合わせることで大切な遊びなので、ゆっくりと伝わりやすい声かけを意識しました」と振り返ります。また、利用者さんとの会話の際には「腰を下ろして相手と目線の高さを合わせるこ

や、自分の考えを押し付けずに丁寧にコミュニケーションを取るこの大切さを学びました」と、温かな交流を通じて得た等身大の気づきを語ってくれました。

### 過ごしやすい町を、私の手で

鈴木さんの将来の夢は、介護福祉士になることです。夢を叶えるため、介護福祉学校への進学を考えています。「栗山は福祉が充実している町なので、町民一人一人が『福祉』への意識を持ち、誰もが幸せに過ごせる町にしていきたいです。皆さんが自分らしく、穏やかな生活を送るためのお手伝いができればと思います」と福祉を学ぶ一人として、熱い思いを話してくれました。

鈴木さんは、4月から3年生になったばかりですが、介護福祉士になるという強い信念が表情にあふれていました。